

喫煙の害について説明する日鋼記念病院呼吸器内科の
中田寛章科長



8月の台風で中止になった
啓発イベント「リレー・フォー
ライフ・ジャパン201
8室蘭」で開催予定だったシ
ンポジウム。「がんになって
も安心して生活できる社会を
めざして」をテーマに、医師
らが講演した。

日鋼記念病院呼吸器内科の
中田寛章科長は、喫煙の害に
ついて解説した後、がん細胞
の増殖を防ぐ分子標的薬や、
がん細胞を攻撃するリンパ球
の一種「T細胞」の働きを阻
害されないようにする免疫治
療など、肺がんの最新の内科
治療を紹介。中田科長は「昔
は強い薬を投与しても半年以

製鉄記念室蘭病院でシンポ

内に亡くなる方も多かった
が、最近はやさざまな治療法
を組み合わせ長く生きることが
できる」と述べた。

製鉄記念室蘭病院呼吸器外
科の長谷龍之介外科長は、脇
腹に1〜2・5センチの穴を4カ
所開け内視鏡で患部を切除す
る完全胸腔鏡手術について
説明した。同病院が来年3月
から導入する予定のロボット
アーム手術について、「3次
元モニターで遠近感がある映
像が見られ、コンピュータ
制御で手ぶれが補正されるの
で、正確な作業ができる」な
どと話した。喫煙者の手術は、
肺炎や血栓症などを併発しや
すく、治療が困難になること
を強調した。

また、がん経験者の森中か
おりさんと桃野亜由美さん
は、患者が別の患者の相談に
乗る「ピアサポーター」の活
動を紹介。「一度は死を意識
した者同士だからこそ、対等
の支援ができる。実際に困っ
たことを医療や行政機関に訴
えることもできる」と話して
いた。

がんを 防ごう

がん対策推進シンポジウム(胆振総合振興局、リレー・
フォー・ライフ共催)が17日、製鉄記念室蘭病院(知利別
町)で開かれた。患者や家族ら約100人が参加し、肺が
んの内科、外科分野それぞれの最新治療や、喫煙が及ぼす
悪影響などについて理解を深めた。
(池田静哉)

肺の最新治療紹介

分子標的薬、免疫、完全胸腔鏡手術…